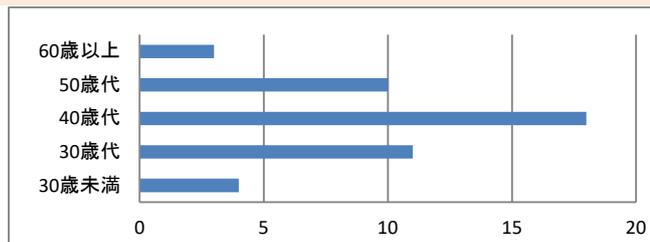


平成29年1月19日(木) 多職種連携研修会 榎本真幸先生講演会 アンケート結果

参加者 57人 アンケート回答者 46人(回答率81%)

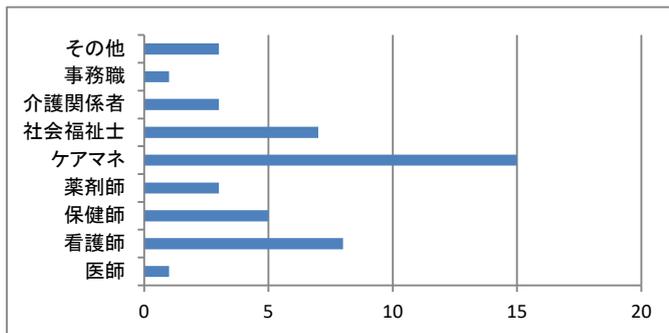
1、年齢

30歳未満	4
30歳代	11
40歳代	18
50歳代	10
60歳以上	3



2、職種

医師	1
看護師	8
保健師	5
薬剤師	3
ケアマネ	15
社会福祉士	7
介護関係者	3
事務職	1
その他	3



3、本日の講演を聴いて、一番印象に残ったことはどのようなことですか？

<医師>

- 目標を意識するということ。

<看護師>

- スタートは生活の中にあると言われたこと。地域で生活しているときから、ネットワーク作りは大切だと思った。
- 本人の声、家族の声、想いを時間をかけて聴く大切さ。入院前から退院支援の大切さ。
- その人が「どうありたいか」をよく聞く
- 連携はゴールを共有すること。お互いの力を引き出すことではじめて連携ということ。すごく力がわいてきた。
- 高齢者が社会を支える(力を引き出す)という発想が全くなかった。目的達成型の考え方、すばらしいと思いました。
- 家族・本人のエンパワメント
- してあげるではなく、求めることを明らかにして目的を共有する。
- 手段ではなく目的にもどる。その人がどうありたいかよく聞く。

<保健師>

- 課題解決型→目的達成型に考えチェンジ。元気高齢者を作る。エンパワメントする。
- 連携とは互いの力を引き出すこと。
高齢者が多いことは悪いことではない“力をもった人がたくさんいる”という捉え方。
- 住民自身が力をつけていくことの仕掛けづくりが公的な役割であると思います。(主役は住民)
高齢者はまだまだ力があると思います。私自身もこの考え方に賛同します。
力をいただきました。ありがとうございました。
- してあげることが目的でなく、目的を共有すること。
- 力を引き出す姿勢を持ち続ける事の大切さ。

<薬剤師>

- 「目的は何か」つい手段から目的達成しようとしがちであるが、本当の目的を間違えないように立ち返ることを感じた。
- 連携とはゴールを共有することであり、課題を解決するのではなく、目的を共有達成することが大切。
- 連携→目的の共有、お互いの力を引き出す
介護費→健康づくりへの投資シフト
目的に返る→何のために。

<ケアマネージャー>

- サービスを調整することに目的をおいてしまっていた。改めて大切なことに気づきました。
- 医療や介護が弱者を作る要因となっていること「ありがとう」と言わせている。
つい出来ない事を補ってしまうサービスになりがち。介護士や看護師がついつい出来ることにも時間短縮のために手を出してしまうことが、(その人の力を)弱らせ「ありがとう」と言わせている。
- 目的達成型の重要性を認識した
- 何のためにするのか
- 連携とは目的を共有すること、お互いの力を引き出しあうことである。
目的の共有=お互いの力を引き出しあう=連携(多職種)
高齢者を社会的弱者にしない。高齢者の力を引き出し高齢者が社会を支えるという支援が大切。
- 何のためにを考えることは、普段できていないので難しいですがとても大切なことだと思いました。
- グループで多職種の方の意見が聞けた。
- 「何のために」を考えて行動していきたいです。社会的弱者にするのではなくエンパワメントするアプローチをしていくこと。医療を生活資源に、知らず知らずそのような想いで頑張ってきましたがまだまだ、医療職も地域住民もその意識に立っていないので傷つくことが多かったですが、あきらめず頑張っていきたいと思いました。
- 今までの医療は本当に何か違うと感じたので、講演を聴いてスーッとしました。
- 手段ではなく、目的に向けて働きかけることが大切である。
- してあげる× 本人家族のエンパワメントを引き出す。元気高齢者をどんどん作っていく。
- 連携とは目的を共有すること、お互いの力を引き出しあうこと。

<社会福祉士>

- 「何のためか」目標、目的を再度考えさせられた。エンパワメントを高める基本。
- 「志」自分磨き 「目的」の共有
- エンパワメントの重要性
- ケース検討をするときに、whyそう想うの…では何のために…という問いかけすることでお互いの意識がつながる。
チームがつながることで、本人の想いを引き出せると感じた。
- 課題解決型ではなく、目的達成型の思考を持つこと。
- 目的達成型
- 何のために？に立ち返ること。
- 自立支援の形が看護や介護の方法ではなく、生き方の決定まで大きくとらえておくことが必要なこと。“死に方”も選んでもらうことが生き方につながる。

<介護関係者>

- 連携→「目的」の共有 お互いの職種の力を引き出せるように。
- 昨年来、自分の中の課題として「目的を考えないと結果がついてこない」ということがあります。
その話が聞けてよかったです。
- 元気高齢者の育成、社会的資源としての活用をいう考え方が非常に印象に残った。

<その他>

- 「何のために」ということを意識することの大切さを感じた
- 何のために
- 目的を明確にすること。その事が印象に残った。普段の仕事の進め方等反省する部分が多かった。
- 「何のために」というところに対する意味、思い

4、グループワークの感想をお聞かせください

- いろいろな立場、職種の方がおられ、多面的にとても良い議論ができました。
- 解らないことを、各職種の強みを活かして話し合いをすることができました。
- コメディカルの方々と話せてよかった。視点が増えました。
- 講師の先生がおっしゃったように多職種と話し合い、身近な存在として感じられ、それぞれの苦労されていることもわかるし、協働していきたい。
- 色んな職種がいるので、意見が聞けてよかったです。
- 多職種(Dr含め)でワークができて知識が広がった。
- 深読みができるグループでした。
- 当たり前前に思っていた事が当たり前じゃないことに気づかされた。とてもいい講演会でした。
- 目的は何？を考えるように頭をかえるとおもしろい。
- 大変よかった。事例がややこしくなくメンバーで共有できた。
- 事務職の方と訪問看護師さんのズレについて明確になり、題材としてとてもよかった。
- グループワークの時間がもう少しほしかったです。
- 色んな初めての方と話せてよかったです。
- それぞれの立場から意見が出てよかった。
- いつもと違った目線でGWができました。
- 具体的な方法についての議論をさけ、目的は何なのかに焦点を当てて意見交換を行った。具体例により、価値観の共有がやり易いと感じた。
- いろんな職種の方と話すことで気づきがある。自分の立場だけの意見だったので一人の人のケアに対してかたよりがなかった。
- 自宅看取りを話合っても(担当者会議で)、細かな部分まで話せていたのかなどの意見交換と自分達が関わっているケースなどに置き換えて事例以上に意見を出し他の方の意見が聞けてとても参考になった。視点が本人かサービス側かなどテーマについても意見交換できよかった。
- 事例を通して情報を共有していく為に、ケアマネの役割について重要さを感じた。
- 目的を意識することで、今までと違ったグループワークになったと思う。
- 皆さん熱心でこのような機会があれば、また参加してお話したい。
- グループワークを行うことで、自分には見えていなかった。別の視点があるということで、自分の今後支援を行う中での引き出しになったと思う。
- 様々な職種の方の視点から疑問は同じでもそこを掘り下げていくと思っても違ってくるのがわかり多くの方と話をすることの大切さを感じました。
- 専門職それぞれの意見がでていました。
- グループワークはいつもとても苦手で、毎回嫌な思いをしていましたが、話し合うテーマが違うだけでこんなにも元気になるのかと驚きました。この経験はぜひ今後活かしていきたいと思えます。ありがとうございました。
- 普段話さないメンバーだったので、とてもよかったです。
- 看取りのあり方はいろいろと思いますが、本人の思い家族の思いをかなえることを皆理解できていた。
- 一体感ありよかった。
- 現場でも取り入れていけると思いました。
- 誰もが素直な意見を出しやすいよう気を付ける必要がある。ファシリテーターが意見を引き出す仲介をしていただくとよいかと思います。
- 家族に息子夫婦が入っているのか、といった疑問の話が出たが、先生からチーム家族を作るエンパワメントという言葉聞いて、間違っていないとすっきりした。意見も多く出てよかった。
- 活発に意見を出し合えてよかった。
- 多職種の意見が聞けるのは自分の振り返りになりありがたい。
- つい方法論に意識が向いてしまう自分に気づけた。目的に立ち返ることに気がつけたい。
- 経験者の意見が聞けてよかった。
- 意見交換ができてよかったです。
- 専門職ばかりなので、いろんな視点、経験値の話が聞けました。
- 他職種の方と話ができて、勉強になることが多かった。
- NS・ケアマネなどいろいろな職種の方の話が聞けてよかった。
- いろいろな職種の方の意見が聞けて良かったし、違う視点の考えに気が付くことができました。
- ひとつの議題に向け、いろいろな意見が出され参考になった。
- 視点を変えた話し合いが新鮮だった。
- 専門職の方々の意見を聞くことができよかった。

5、受講し、明日からの「自分の活動に移せそうな事」はどのような事でしょうか。

- 退院カンファレンスに活かす。
- 入院してすぐからの聞き取りを努力したい。
- 対象の声をしっかり引き出し、意思決定支援を行いたい。
- 何事にも目的を考える。すぐに対策を考えないようにする。
- 患者の意思決定を支える、看護師の育成。
- 自己実現を自ら示していく。
- 本日のグループワークの現場での実践。
- ちょうど先日、東急の社長の話を読んだばかりで、ビジョンを考えてそれに基づいて事業をしていくことで、町全体を幸せにするという話をよんだばかりなので。
- 課員に「目的は」「何のために」と聞く。
- 様々な場面において丁寧な情報把握と共通認識。
- プランナーの為、地域へのアプローチはなかなかですが、事例から何か地域の課題の提案ができればよいと思います。
- 元気高齢者を増やすように。
- どうしても方法(解決法)を考えてしまう。目的…どうしてこのことをしたいと思うのかを考えていても、また戻ってしまう。みんなで目的を話し合うことから言葉にできるとよいか。
- 日々の業務に振り回されがちであるが、この仕事は何のためにということを見直して取り組みたい。見直せば手法ややり方もかえられそうな気がする。
- サービスだと思って仕事をしていて「してあげて」と思いました。この方には「何が必要か」という視点で仕事をしていきたいと思う。
- 目的に返る。目的をハッキリさせる。
- 誰のため、何のために目的をおき関わりを持っていきたい。
- 実際の担当者会議でも、今回の様にもっと意見がいろいろな方から出るとよいがサービス側の提案を家族が受け入れることが多い為、限られた時間の中で、細かな部分まで話し合えるようになれば、また、できる事を引き出せるような支援ができればと思います。
- してあげるからエンパワメントへ
- 目的を共有してこそその連携
- 目的を共有すること、ゴールがバラバラであるとチームがまとまらず利用者も困惑してしまう。多職種連携の強化。
- 目的を共有できるような話し合いができるようにしていきたいです。
- 合意形成はゆれ動くもの、チーム、多職種で関わるのが大切と思いました。
- 「安らかな看取りを迎えるために」のパンフレット活用したいと思います。自分のまた事業所の支援がエンパワメントにつながっているかを常に振り返っていききたいと思います。
- CMとして本人の思いは理解できていても家族の思いと一致する人は全てでなく難しいところもあります。
- ひとつひとつのケースの原点「何のため？」
- 思ったことを伝える。
- まずは自分だけでも、何のためか、エンパワメントを意識したい。
- クライアントが目指しているゴールを共有できるように関わりたい。
- ぜひ、ケース検討会にケースメソッドを取り入れたい。
- 生活を見据えた支援
- 介護予防や総合相談で対応するときに「何のために」を考えて、支援方法やチームアプローチを考える。
- 今後「何のため？」にしているのか考えながら働けるようにしていきたい。
- 「目的」に意識をもちチームで共有していきたい。
- 目的意識を持って人に伝えること。
- とにかく実行型から「何のために」目的型に変わるよう努力したい。
- 「目的」を意識すること

6、研修会全体を通してのご意見・感想や、今後希望される研修

- また参加したいと思った。
- ながまいネットもこんな風にすすめる。
- またシリーズであれば、聴講させていただきたいです。
- 大変興味深い内容でした。志を持って、目的意識を持ちながら生きていければとおもいました。
- ホテルでなく、公民館等でよかったのでは。お金がかかってないですか。経費は安く、皆が集まれる場をもっとつくってほしい。
- グループワークは情報交換が出来るので、講演だけでなくグループワークの機会があればうれしいです。
- 目的を意識する行動に変わりたい。
- もう一度テキストを読みたいと思います。
- 大変有意義な研修をありがとうございました。市民の方にも多くの聴講いただきたいと思います。
- 櫃本先生の話が時間が少なかったためか、急いでおられたきらい(傾向)があった。もう少しじっくり聞けるとよかった。事例よかった。
- 認知症の特に車の運転をやめさせるためなど、具体的な家人の困りごとによりそったケースメソッドをしてほしい。
- 興味を持ってきけました。